

本学に蓄積された学術成果の発信 / 多摩地域の歴史研究成果を紹介

企画展「多摩のいま・むかし-八王子の山城・中野村の象-」を開催

～7月14日(日)には公開シンポジウムを開催～

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループは、昨年度実施の企画展「東京の大自然と生命科学研究」及び「紀元前540年-縄文の森とムラづくり-」の好評を受け、第3回企画展「多摩のいま・むかし-八王子の山城・中野村の象-」を開催します。時代によって大きく範囲を変化させてきた「多摩地域」の変遷、中世の山城・八王子城と豊臣秀吉による関東侵攻、そして本学で保管される貴重資料「堀江家文書」などを読み解いていきます。

期間中には、「秀吉を迎え撃て一天正年間の関東の城一」と題し、公開シンポジウムも開催します。高校生や歴史初心者にも親しみやすい内容で、第一線の研究者が最新の研究成果について解説を行います。

企画展、公開シンポジウムとも、観覧・参加費無料、申込不要ですので、ぜひご参加ください。また、報道機関各社様からの企画展、公開シンポジウムの取材も歓迎いたします。

○ 企画展「多摩のいま・むかし-八王子の山城・中野村の象-」 概要

- ◆ 開催期間 平成25年7月12日(金)～7月25日(木) 11時～17時 ※会期中無休
- ◆ 開催場所 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館
(京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分)
- ◆ その他 観覧無料、申込不要

○ 公開シンポジウム「秀吉を迎え撃て 一天正年間の関東の城一」 概要

- ◆ 開催日時 平成25年7月14日(日) 14時～17時
- ◆ 会場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館 「多目的ホール」
- ◆ その他 参加無料、申込不要 ※会場定員100名となります。



八王子乗縄張図

(八巻孝夫氏原図、『図説中世城郭事典』より)



描かれた中野村の象

(「武蔵名勝図会」国立公文書館蔵)



象骨を見せることの願書

(堀江家文書 首都大学東京蔵)

企画展及び公開シンポジウムの詳細は、別紙資料をご覧ください

<お問合せ・取材申込先>

首都大学東京 91年館 学芸員養成課程展示室
電話：042-677-1111 (内線 2041)

企画展

多摩のいま・むかし

—八王子の山城・中野村の象—

東京都の西に位置する地域は、かつて多摩郡という行政区画地域でした。その多摩郡の歴史をひもとくと、その範囲は時代により大きく変化しています。分割して多摩郡の表記自体が無くなった時期、逆に分けられていた地域が結合し、改めて多摩郡となった時期などです。これらは何度となく繰り返され、現在の区・市町村になりました。

このように変化する多摩郡の中で、戦国時代には小田原に本拠を置く北条氏に仕え、また江戸時代には名主として村の代表を務めた中野村（現中野区）の堀江家があります。そこに残された古文書は、一部は中野区の宝仙寺（堀江家菩提寺）などに分かれて残されますが、多くは首都大学東京に保管されています。

宝仙寺に残る堀江家文書を見ると、八王子城等関東各所を豊臣秀吉が攻撃した際に発給した戦乱のなかで兵火の災害をさけるために出された禁制^{きんせい}などが見られます。また、首都大学東京には、名主としての役務に関わる文書はもとより、多摩郡に象がいたこと、その死後に象の骨などを活用したことが知られる文書が見られます。

本展示では、特に堀江家文書について現文書の展示・解説も併せて行い、上記のような注目すべき点にスポットを当てて解説していくことにします。

基本情報

- ◆ 会 期 平成25年7月12日（金）～7月25日（木）※会期中無休
- ◆ 時 間 11:00～17:00 ※観覧無料
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館
京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分
- ◆ 主 催 首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ/
首都大学東京 日本近世史ゼミ
- ◆ 展示内容 ○「多摩のいま・むかし」 ○「堀江家文書と中野村に来た象」 ○「八王子の山城^{やましろ}」

シンポジウム

秀吉を^{むか}え^う撃て

—天正年間の関東の城—

基本情報

- ◆ 日 時 平成25年7月14日（日）14:00～17:00
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館 多目的ホール
定員100名・参加無料・事前申し込み不要
- ◆ パネリスト 齋藤 慎一（江戸東京博物館 学芸員）
諏訪間 順（小田原城天守閣 学芸員）
竹井 英文（日本学術振興会 特別研究員）
- ◆ コーディネーター 谷口 央（首都大学東京大学院 人文科学研究科 准教授）

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ

第3回企画展の特色

今回の企画展は、本研究グループ所属の人文科学研究科日本近世史専攻の教員が中心となり、本学南大沢キャンパスが所在する「多摩地域」に注目し、歴史研究の成果について紹介を行います。

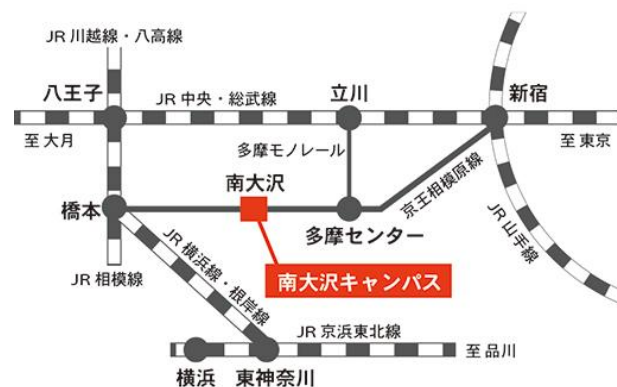
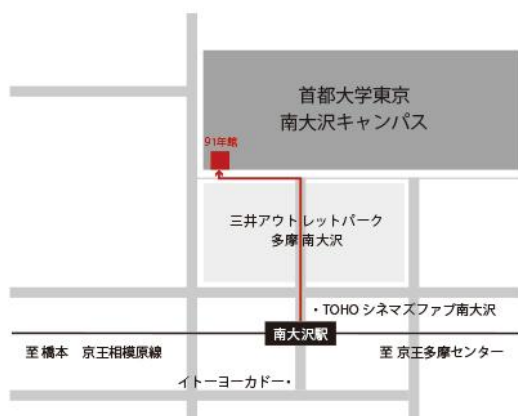
また、本展示の特色の一つとして、「研究・教育の成果の公開」が挙げられます。展示の企画から製作には、日本近世史分野の研究者・学生だけでなく、平成24年度「博物館実習Ⅰ」をとおして、本学の学芸員養成課程の学生も参加しています。

なお、企画展の他にも、常設展示として、本学南大沢キャンパス91年館「学芸員養成課程展示室」では、本学内の7つの分野（日本史学、動物系統分類学、植物系統分類学、地形・地質学、考古学、社会人類学、芸術学）が保有する研究資料・標本類をご覧いただけます。本学の所在する東京・多摩地区に密着した研究成果から、世界各国の話題に至るまで、最新の研究成果を親しみやすく紹介しています。

会場までのアクセス

交通アクセス

京王相模原線「南大沢駅」下車徒歩約5分
 ※一般車両の駐車場はございませんので、
 公共交通機関にてお越しください。



周辺案内

南大沢駅改札口を出て右手奥に南大沢キャンパスが見えます。

正門の手前で左折、130m程進むと91年館です。大学構内には入らずにお越しいただけます。

首都大学東京 91年館 学芸員養成課程展示室 <http://www.comp.tmu.ac.jp/gakugei/index.html>

研究代表者 山田 昌久（教授 所属：人文科学研究科 文化基礎論専攻 歴史・考古学教室）
 本企画展責任者 谷口 央（准教授 所属：人文科学研究科 文化基礎論専攻 歴史・考古学教室）